

## 平成29年度第2回流山市子ども・子育て会議 会議録

### 日時

平成29年5月26日（金） 午前10時～12時

### 場所

流山市役所 第1庁舎 3階 庁議室

### 出席委員

岩倉委員、古宿委員、山中委員、柏女委員、藤原委員、鈴木委員、藪本委員、仲宗根委員、平田委員

### 欠席委員

岡本委員、櫻庭委員、田中委員、吉川委員

### 事務局

矢野子ども家庭部長、熊井子ども家庭課長、石井保育課長、  
秋谷子ども政策室長、小谷子ども家庭課主任主事、佐々木子ども家庭課主事

### 傍聴者

2人

### 議題

- (1) 国の見直しの考え方について
- (2) 児童推計及び量の見込みと確保方策の見直しについて
- (3) その他

### 資料

#### 配布資料一覧

次 第：第2回流山市子ども・子育て会議次第

資料1：国の見直しの考え方について

資料2：児童推計及び量の見込みと確保方策の見直しについて

資料3：平成29年度子ども・子育て会議スケジュール【変更後】

## 議事録（概要）

### （事務局）

ただ今から、第2回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

本日の会議は、お配りしました「第2回流山市子ども・子育て会議次第」に基づきまして進めさせていただきます。

まず、お配りしました資料の確認をさせていただきます。

### 《資料の説明》

次に会議の成立について申し上げます。附属機関の会議は、条例第5条第2項及び3項の規定により、委員の半数以上の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによるとされております。本日の会議につきましては、委員13名中9名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

それでは、ここで子ども家庭部長から一言挨拶させていただきます。

### （子ども家庭部長）

雨の中、お集まりいただき、ありがとうございます。今回は、現委員の最後の子ども・子育て会議となります。2年間、ありがとうございました。次期の委員についてですが、先日、面接等も終わりました。6月2日に委嘱式を予定しています。引き続き、委員に内定されている方は、今後とも、よろしくお願いいたします。今年度は、子どもをみんなで育む計画の中間見直し年となります。これから年度末にかけて、会議が続けて開催されますので、お手数をおかけしますが、何卒、よろしくお願いいたします。

### （事務局）

では、ここで傍聴の方にお入りいただきますので、宜しく願いいたします。

### 《傍聴人入室》

傍聴される方は、会場での写真撮影、録画、録音は行わないでください。また、その他、会議に支障をきたす行為は行わないでください。議長の命令に従わない場合は退室をお願いする場合がありますので、ご協力よろしくお願いいたします。それでは、ここから審議に入りますので、会長の柏女委員に議事進行をお願いいたします。柏女会長よろしくお願いいたします。

(会長)

おはようございます。お足元の悪い中、お集まりいただき、ありがとうございます。第1回目の会議で、アウトカム評価等の話をして、様々なご意見を頂戴しました。今日は、児童推計について、ご意見を頂戴しまして、議論をしていく予定でしたが、事務局の都合により、次期の会議で、市としての児童数の推計を出した上で、量の見込みと確保方策を考えていく方向となりそうです。今日は、そうしたことを踏まえまして、国の方では、中間の見直しに関して、どのように考えているのか、計算式等のご説明をいただいて、市として考えていく基本方針を固めていくことが今日の議題になっています。また、その他としまして、今日で今期の会議は最後となりますので、この2年間を通じて感じたことや、今後、市の子ども子育て支援施策に期待されることなどについて、お一人ずつご意見を頂戴したいと思います。議事録にも残して、次期の方々にもそれを活かしていただき、引き継ぎを行っていきたいと思います。皆様から、忌憚のない意見を頂戴できればと思います。それでは、議題1の「国の中間見直しの考え方について」、これは報告という形になりますが、事務局から説明をお願いします。

《事務局説明》

(会長)

ありがとうございました。一つは、流山市の計画も国の指針に基づいて定められていますが、この国の指針の中間見直しの時期に当たるため、国として、計画を見直すための基準を策定したものになります。その基準に基づいて、各自治体は、随時、見直しを行っていくこととなります。もう一つは、今年度から策定が義務化された障害児の計画について、策定するための留意事項が国から示されています。障害者全体の計画の中に、障害児の部分が入っていて、児童発達支援センターは少なくとも1カ所以上は作らなければならないことや、保育所等訪問支援について、流山市の障害をもった子どもたちが利用できるように体制の整備を進めていくことなどが国の指針に示されています。それに基づいて、流山市はどう考えるのかが次の議題となります。まず、国の考え方について、ご意見ご質問がありましたら、お願いします。

流山市は、全国的にみても人口増加率が高いので、例えば、資料の3ページの1号認定こどもは、女性の就業率の増加に伴って、マイナスの補正值となっていますが、流山市は女性の就業率は増加しても、転入してくる方が多ければ、1号認定子どもは減らない可能性もあるかと思います。また、地域子ども子育て支援事業の中で、大きく影響しそうなところが挙げられていますが、妊婦健

康診査やこんにちは赤ちゃん訪問事業なども、他市では増減しない可能性はありますが、流山市では子育て家庭が入ってきているので、増える可能性もあるかと思います。これは、児童数の推計値が影響してくると思います。

それでは、特にないようですので、次の議題に移りたいと思います。議題2「量の見込みと確保方策について」、今度は流山市の考え方となります。児童推計や現状を含めて、事務局から説明をお願いします。

#### 《事務局説明》

ありがとうございました。委員の方からご質問ご意見をお願いします。

(鈴木委員)

1号認定子どもの実績値が出ていますが、これは幼児教育支援センター附属幼稚園と認定こども園に通う子供の数ですか。

(事務局)

幼児教育支援センター附属幼稚園と、新制度移行している他市の幼稚園や認定こども園に通う数になります。

(鈴木委員)

移行していない幼稚園に通っている子どもの数は入っていないのですか。

(事務局)

確認します。

(会長)

計画を策定するときにもありましたが、流山市民で市内の幼稚園に通う子供と市外に通う数、市外から流山市の幼稚園に通う数など、様々ありますので、しっかりと区別しないと見込み違いが出てくる可能性があります。実績値については、詳細を分析した上で、推計を出すようにしてください。

私から質問ですが、保育所の利用率は上がっているのですか。2ページで、3号認定について、平成27年から平成29年は、860人増えていますが、3歳未満の小学校就学前子ども数の実績値をみると、同じくらい増えています。つまり、保育所を希望する割合は変わっていないように思われます。しかし、申込者は増えているということですので、実績はどのようになっていますか。

(事務局)

まだ十分に把握はできていません。

(会長)

認定事由の補正值のところはしっかり調べないと、間違った数値になってしまう可能性があります。計画よりも上回って増えているということは、女性の就業率が増えていなければ、人口増加が予想よりも上回り、待機児童が増えてしまったのかと考えられます。そのため、見直しの際には、量の見込みを見誤らないようにしていかなければならないと思います。

(山中委員)

まず、3号認定子どもの数は、保育所の入所を許可した数ということですか。そうであるならば、保育所の定員や整備状況に影響されるので、本当の保育のニーズの数ではないということですか。

(事務局)

認定の数と入所の数は別なので、入所できなかった数も含まれています。

(山中委員)

わかりました。学童クラブの数についてですが、利用実績や学童クラブの整備状況を踏まえて、算出するとありますが、この利用実績や整備状況と言うのは、学童クラブの定員に合わせて見込みを算出するのか、もう少し具体的にご説明をお願いしたいと思います。また、障害児に対する福祉サービスについては、流山市の福祉施策審議会で協議をされているということですが、見込量の中に、つばさや特別支援学校だけではなく、学校の支援級に通っている子どもたちもサービスを利用したいというニーズを聞くが、福祉施策審議会の中で、見込みを出すにあたって、支援級に通っている子どもの量も勘案されるのかどうかお聞きしたいです。

(事務局)

学童クラブの数については、利用実績や整備状況などを勘案して考えていく予定ですが、具体的な方法は決まっていない状況です。当初の計画は、定員を40名として策定していますが、見直しにあたってその数字で良いかを、現在、教育委員会と協議中です。基本的には、教育・保育の量については、総合計画の推計値を使うが、学童クラブに関しては、学校建設のために使っている数字が良いのではないかという話もあり、いずれにしても、入学している子ども

もの数に合わせて、学童クラブの整備を行っていく必要があると思います。

また、福祉施策審議会は社会福祉課が事務局になっていますが、どこまで考慮していただけるのかは相談したいと思います。

(山中委員)

それでは、1号認定や2号認定に使っている計算式のようなものは無いのですか。

(事務局)

現在、それを検討中しているところです。児童生徒数の増加に伴い、教室の不足が生じているため、小学校を1つ増やす計画があります。当然、学童クラブに関しても、生徒数の増加に伴い、利用率も増えてくることを見込みながら、施設整備を考えていきたいと思っています。

(会長)

今、山中委員からあったように、整備状況に合わせて、利用率を決めていくのではなく、現在の可能性のある利用数から割り出していくことをお願いしたいと思います。保育所の利用率が増えれば、同じくらいの数が学童クラブでも増えることになると思います。例えば、3号認定の子どもが、約1.8倍増えているので、必然的に、その子どもたちが小学生になるころには、約8割増えることになると思います。計画では、学童クラブは倍にするという計画を立てていますが、今の状況からすると、2倍では間に合わない可能性があります。単純に計算するとそのような数値になるので、児童数の推計だけではなく、それ以外についても勘案していかなければならないと思います。

(藪本委員)

2点あります。1点は、市の人口推計について、量の見込みを算出するとき、割合の部分はいくら協議しても、母数になる人口推計の部分が大幅にぶれてしまうと見込み違いになってしまいます。なぜ、推計値が上振れをしたのか、人口推計を担当している課と協議をして、要因を分析する必要があると思います。集合住宅が増えたためなのか、土地の売れる速度が予想よりも早かったのか、それによって、ピークが変わってくると思うので、今一度、総合計画の人口推計について精査をしていただきたいと思います。

2点目ですが、学童クラブの話がありましたが、本当の意味で学童クラブが必要な子供と、放課後の居場所として学童クラブに通う子供が、混ざって議論されていると思います。小学校でも、放課後子ども教室の動きがあるようです。

が、子どもの母数はこの人数で、その中で、保育として学童クラブを利用する必要がある子はこの人数、と分類分けをしないと、箱は作ったが、結局、そこまで必要はなかったとなってしまう可能性があります。保育の認定区分と同じように、学童クラブも事由などによって、分類していく方が良いと思います。

(会長)

1番目の課題は大切な事なので、他の部署になるかと思いますが、要因を十分に分析して、議論していただきたいと思います。2点目は、全てを学童クラブで対応しようとするわけにはいかないと思うので、放課後子ども教室で対応できる子どもたちも大勢いると思うので、そこは分けて考えていきたいと思います。

他には、いかがでしょうか。特になければ、次に量の見込みを議論するときまでに、十分精査をしていただきたいと思います。

それでは、その他ということで、今回が最後の会議になりますので、委員の皆さまから一言ずついただきたいと思います。

(岩倉委員)

私は子どもが大好きなので、この会議に参加させていただき、良かったです。子どもの持つ力は、障害を持っている、持っていないにかかわらず、親が想像する以上にすごいものだと思います。障害を持っている子どももすごい力を持っていて、昨日できなかったことが今日はできているような、つばさ学園に通いながら、こどもの成長をととても感じました。流山市の計画を進めるにあたって、切れ目のない支援ということがありますが、障害を持っている子の親は、悲観的に考えてしまうことが多く、政策が掲げられても、健常児の子どもが優先されるのだらうと思ってしまうがちです。個人的な意見としては、お互いの情報の共有が少なかったり、それを上手く提示することができないために、温度差があるのかと思います。流山市はこれから、子育て世帯が増えていくと思いますので、切れ目のない支援で、子どもをみんなで育む計画が実って、良い流山市になっていくと嬉しく思います。ありがとうございました。

(会長)

切れ目のない支援という意味では、子ども子育て支援の計画と障害児の計画をしっかり繋いでいくためのサービスをどちらからも用意をしていくことが大事だと思います。引き続き、障害児関係の方にご参加いただき、計画作りにご意見を頂戴できればと思います。

(古宿委員)

ファミリーサポートセンターを代表として、参加させていただき、皆様からの貴重な意見をお伺いすることが出来、ありがとうございました。私は、委員を2期続けてきましたが、次期は新しい方になります。今後も、ファミリーサポートセンターとして、地域支援の活動は続けていきたいと思ひます。

(山中委員)

学童クラブを代表する者として、この会議に出席させていただきましたが、次期は違うメンバーになります。大変注目度の高い場の計画に、意見を述べさせていただけることが出来て、大変嬉しく思っています。

最後に2点申し上げたいことがあります。1点目は、学童も含め、これから、子どもに関する施設を整備していくと思ひますが、保育と教育が並列して書かれていることが多くあります。学童クラブは生活の場なので、保護者からは教育的な部分のご要望が多くありますが、そういうことが子供に浸透するためには、生活支援だったり、保育の部分をしっかり支えていかないと教育の部分は入ってこないと思ひます。その生活の部分を支えるためには、支援員の質の向上も求められています。保育がしっかり出来るような、例えば子供の怪我などが起こりにくいような環境整備が必要だと感じます。子供が生活をするという環境の視点で整備を行ってほしいと思ひます。

2点目ですが、以前、保育料の改正の議論を行いました。大変建設的で良い審議が出来たと思ひますが、その議論の過程をもっと子育て家庭の方々に伝えていくと、もっと流山市の子育て環境がさらに良くなって、満足度が高まっていくと思ひます。今後、計画の見直しにあたり、パブコメを行うと思ひますが、子育て家庭の方々に経過を伝えるような取り組みが出来たら、もっと良いものになっていくと思ひます。2年間ありがとうございました。

(藤原委員)

主任児童委員の立場で参加させていただき、次期は交代します。民生委員をさせていただくと、学校や幼稚園に訪問することがありますが、その時に、行政は縦割りで、横との連携が少ないと感じます。保育や学童クラブ等の担い手について、資格と資質の問題があると思ひます。資格は必要ですが、資質もとても必要なものだと思います。保育所や学童クラブ等には、ハード面とソフト面があり、例えば、学童に通う障害をもった子どもの中には静かな環境で静養させてあげたいという時があるが、ワンフロアでは難しい場合があります。そして、ソフト面として、その子たちをケアしてあげるのが、先生の資質になってくると思ひます。そのことを一つの面でみるのではなく、あらゆる面からみていくことが必要だと思いますし、この会議で議論できれば良いと思ひ



ました。ありがとうございました。

(平田委員)

市民枠として、この場に参加できたことを嬉しく思っています。今、子育て支援拠点の場に携わっていますが、流山では保育所を必要としている子どもが増えています。短期間に保育所を増やしてきているために、現場の中では、経験の浅い保育士が増え、安全面だったり、活動の豊かさという部分では質の低下が懸念されている気がします。量の拡大だけではなく、質の維持や向上の検討に向けて、今後も進めていけたら良いと思います。現在、流山市でも地域子育て拠点について積極的に検討していただき、今後は地域全体で子育てができる街になっていくと良いと思います。ありがとうございました。

(藪本委員)

現在、2期目を迎えて、市民として思うのは、流山の看板は立派だが、中身が追い付いていないという話を聞くので、少しでも前に進めればと思い、次期も参加させていただければと思っています。この会議は意見が活発に出されるので、とても素晴らしい会議だと思っています。3期目以降もこの雰囲気を継承していければ良いと思います。2年間、ありがとうございました。

(仲宗根委員)

4年間、ありがとうございました。行政が何をしているのか、全くわからない状況で参加して、行政資料は本当に難しく、基本を理解するのも時間がかかってしまったのですが、非常に勉強をさせていただきました。この会議に参加して、人生を変えてもらったと思っています。サラリーマンの時に携わり、流山市の状況を知り、もっと地域のことに関わりたいと思い、会社を立ち上げました。この計画は、子どもをみんなで育むという名前で、行政だけではなく、母親も父親も、みんなで繋がりをもたないといけないと思いました。都内で働いているときは、友達もなかなかできず、情報も分からない中で、ただ不安しかなかったのですが、情報が入ってくると自分たちもどうしていくかということを考えるので、年齢や性別や就業の有無に関わらず、地域での繋がりを作っていくことが重要だと思いました。そのこともあり、母親が働きながら地域での繋がりをもてる場所を作りましたが、流山には、自分たちに何ができるのかを考え、行政と一緒に進んでくれる人がたくさんいると思います。この会議で知ったこと、情報を取りに行くこと、自分たちで考えていくことをこれからも周りの方々に伝えていきたいと思っています。

(鈴木委員)

この会議に2期参加させていただいていますが、自分の事業に振り返り、繋げていくことが大事だと思いますし、みんなで育てることが自分の核にもなれた気がします。幼保一元化という話もありますが、教育と保育が歩み寄る必要性もありますし、そこには家庭教育も大事になってきていて、どのようにみんなで育てていくのか、ということを経験する場に参加させていただき、今後も、自分の仕事や市民のためになるように動いていければ良いと思います。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。この2年間で保育料の話が一番大変だったと感じました。流山市は、「母になるなら流山」ということを標榜しつつ、保育料を値上げすることをどのように考えていったら良いのか呻吟しました。事務局の案をそのまま1回目で受け入れるのではなく、様々な資料を出していただきながら、良い審議ができ、答申では付帯意見として、料金を上げた部分は質の向上に使うしてほしいとの意見を述べたことは、大きな経験になりましたし、この会議の力を強く感じることができました。流山市民の方や事業者の方はそれだけの力を持っていると思うので、行政もパブコメなどで様々な意見を吸い上げていくことが大事だと感じました。

また、印象的だったことは、アウトカム評価の自由意見についてです。そこには、潜在能力を持った市民の意見がたくさん散りばめられていると思いました。厳しい意見も多かったですが、それが率直な意見だと思いますので、アンケートの総括的な報告と同時に、自由意見を利用者の声として、真摯に受け止めていかなければならないと思います。また、先程山中委員が発言していましたが、障害者計画を議論する社会福祉施策審議会の場に、教育委員会での検討や議論したことがどの程度活かされるのか、あるいは、福祉施策審議会で議論されたことを教育委員会でどのように対応していくのかが問われてくると思います。そういう意味では、社会福祉施策審議会の場に、教育サイドの人が意見を述べることもとても大事だと思います。切れ目のない支援を手続きの面から担保していくことはとても大事ですし、これからも続けていかなければならないと思いました。この計画の中で、引きこもりの子どもたちのことや学校に行けなくなってしまった子どもたちは特別支援教室だけで良いのかということ等も考えていかなければならないと思います。

最後ですが、次期は継続されない方も、地域の一員や事業者の一員として、子ども子育ての問題に関わり続けていただきたいと思います。今、民間レベルで、子ども子育て会議を経験された方々が中心となって、子育てネットという事業者を含めた地域の人々との繋がりを作っています。流山の子育てを行

政と民間の力で少しでも良くしていくことができるきっかけの会議になれば良いと思っています。今後とも、御協力をお願いします。また、事務局にも、時には手厳しい意見を出しましたが、建設的な提案を出していただき、感謝しています。

それでは、最後に事務局の方から、何かあります。

(事務局)

2年間ありがとうございました。事務局からも委員の皆様にお礼を述べさせていただきますと思います。

保育課の石井です。子ども家庭課から保育課に配属になり、市民の方から、毎日のようにいろいろなご意見をいただくので、より良い保育所にするために、出来る限り現場に出向き、現場の意見を聞くなどして、状況を把握することに心がけています。この会議で、委員の皆さまと知り合いになり、会議以外の面でも助けていただき、ありがとうございます。子育てネットが出来、ファミリーサポートセンターも拡大でき、少しずつですが、支援の幅が広がられていると思います。市民の方の声を直接聞くのは、難しい時もあるので、この会議を通じて、ご意見がお伺いできればと思います。ありがとうございました。

子ども家庭部の矢野です。保育料改定の際は、どのように進めていくのか、大変苦慮した記憶があります。最終的には、答申の付帯意見の中に、影響額は保育サービスの向上に使ってほしいという文言があり、保育士の処遇改善に使わせていただくことが出来、良かったです。今年度は、育む計画の見直しがあります。人口推計は核になる部分ですが、実際は上振れをしまっていることが多く、様々な要因を考えながら、出していきたいと思っています。また、待機児童についてですが、流山市も今年度2ケタに戻りましたが、他市では、保育所の申込者数が横ばいのところが多いですが、本市は昨年度に比べて、400名弱増えていて、なかなか難しい状況です。2年間、委員の皆さまには前向きに議論していただき、本当にありがとうございました。

子ども家庭課の熊井です。2年前に委嘱をさせていただきまして、前年度に作った計画の進行管理や見直し等が命題にあり、様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。1期目からの委員の方々には、計画策定時に、ワークショップやニーズ調査等、手弁当の状況でやっていただき、本当にありがとうございました。最初、子どもをみんなで育むという言葉には戸惑いがありましたが、2年経過し、やはり、流山市にとって素晴らしい言葉だと思いました。この言葉に込められた思いを、次期委員の方々にも伝えていければと思っています。

(会長)

それでは、今期の子ども子育て委員の最後の会議になりますが、これで終了させていただきます。今回で任期を終えられる方は本当にありがとうございました。また、継続して続けていただける方はぜひ、よろしくお願いいたします。ご協力ありがとうございました。